

文芸雑誌『蒼穹』・『胎土』総目次

一昭和 10 年代「茅ヶ崎文学史」構築のために

平山孝通*

【解題】平成2年(1990)年の秋、画家の三橋兄弟治先生の南湖のご自宅を訪れた折り、先生よりご紹介頂いた貴重な文学の資料がある。昭和10年(1935)7月から翌11年1月にかけて発行された文芸雑誌『蒼穹』(5冊)と『胎土』(1冊)である。この雑誌を複写して機会をみて紹介したいとお願いしたが内容に関しての質問はしなかった。というより文学に関する知識がなく出来なかったのである。中学校の教師や画家以外の三橋先生を考える上で貴重な資料であることは、今あらためて雑誌を繙いて感じている。文芸作品はもとより、表紙絵、口絵、カットと多くの三橋先生の作品が掲載されている。先生を知る上での新たな資料群といえる。

昭和10年代初期の茅ヶ崎の文学及び美術界の傾向、雑誌の編集・発行・頒布のご苦労、同人の様子、誌名の由来、誌名改題の事情、発行部数、資金の調達、スポンサーの有無、終刊の事情、戦後復刊の機運、同人以外の評判等々伺いたいことは多い。

同人は鬼籍に入られた方も多く「総目次」だけでも、示しておけば、戦前のほんの一時期であるが茅ヶ崎町の「南湖」を中心とする文学の傾向の一端が伺えるかと考えた。本格的な考察は適任者を得て後日の課題としたい。

まずは、巻頭言、編集後記、あとがき、原稿募集、同人名簿、規則、消息等々を参考に各巻の概要をスケッチしてみよう。

「概要」のあとに、「総目次」と「作者別索引」を付けた。

(引用文は、旧字・新字の混在、旧仮名遣いは原本通り、…は一部省略や中略を示し、敬称は省略した。)

【概要】

1 『蒼穹』第1巻―第1号、7月号

誌名は「あおぞら」、ローマ字で「A O Z O R A」と表紙にある。

昭和10年7月10日印刷納品、15日発行。編集責任者兼印刷人は三橋兄弟治(茅ヶ崎町茅ヶ崎4237番地)、発行人は伊藤正三郎(同茅ヶ崎1980番地)、発行人方を発行所として創刊された。32頁、非売品。

収録作品は、巻頭言、詩4、短歌3、俳句2、随筆随想5、創作・小品4、その他2、編集後記。

「思う事をお互に語り合ひ、発表し合ふ事が出来たらどんなに嬉しい事だらう。殊に強い表現の欲望を持ってゐる私達芸術を愛好する者にとって、それは限りない喜びでなければならない。…何等の、主義主張もなく、文学なり、美術なり、音楽なりに興味を持つ私達が、各人独自の立場に於いて作品を発表し、意見を交換して、お互いに芸術上の理解と表現の力とを養ひたいと云ふ希望から、こゝに今雑誌「蒼穹」を発刊する事になったのである。」と、編輯部の「『蒼穹』の創刊について」にその趣旨が記されている。

M生(三橋兄弟治か)の「編集後記」には、「創刊号が漸く出来上がった。…雑誌を編輯し、印刷することはなかなか容易な事ではない。…貧弱なものである事を痛感する。…まず第1号を出してから立派なものにしようと考えて思ひ切って不準備のまま創刊号を出す事にしたのである。…」佐藤十蟻(東京美術学校師範科出身、「詩洋」同人)、川口キミ(「短歌月刊」同人)両氏の力添への謝辞がみられる。

「原稿募集」に、小説・戯曲(原稿紙

10枚以内）、随筆・感想・紀行文・小品（同5枚以内）、詩（1人3篇以内）、短歌・俳句（1人10句以内）、文芸評論（同5枚以内）、其他と原稿紙枚数及び作品数の制限が記されている。また、何人の投稿も歓迎、取捨は編集部一任、本紙希望者には送料2銭で送る、締切は毎月20日、宛先は伊藤正三郎方とある。

2 『同』第1巻－第2号、8月号

昭和10年8月15日発行、編集責任者兼印刷人、発行人、発行所は第1号に同じ、40頁、実費15銭。

収録作品は、巻頭言、詩10、短歌5、俳句4、随筆随想3、創作2、その他7（原稿募集、同人名簿、読者の声2ほか）、編集後記。

「原稿募集」に、小説・戯曲（原稿10枚以内）、随筆・感想・小品（同5枚以内）、詩（1人2篇以内）、短歌（1人10首以内）、俳句（1人10句以内）、文芸評論其他（同5枚以内）とある。詩の投稿制限が3編から2編に、本紙希望者には実費15銭で頒布する。原稿の締切は毎月25日、宛先は三橋角太郎方に変更している。

同人は、「同人名簿」によると伊藤正三郎、石井ふみ子（鎌倉郡鎌倉脳病院内）、土岐敏子、加藤定次（横浜市中区日本大通英国総領事館内）、長島凡夫、松下寅治（藤沢町）、佐藤十蟻、三橋兄弟治、三橋角太郎、三橋三吉の10人（男8人、女2人）で、市外3人、市内の7人は茅ヶ崎町茅ヶ崎の在住者。

「編集後記」に、「内容に於て、7月号よりずっとよくなった事は編者も自信がないわけではない。…かくれたる芸術家のご参加を願ひたい…同人がもう少し多くなれば本誌も活発になる」と同人の募集をしている。

3 『同』第1巻－第3号、9月号

昭和10年9月30日発行、編集責任者兼印

刷人・三橋角太郎（茅ヶ崎4259番地）に変更、発行人、発行所は前号と同じ。32頁、15銭。

収録作品は、巻頭言、詩7、短歌7、俳句3、随筆随想4、創作1、その他3（原稿募集ほか）、編集後記。

「表紙」は1、2号の三橋兄弟治の作品から、題字は石黒翠波、図案は佐藤十蟻に変更した。口絵版画が募集されているので、応募作品の一つかもしれない。

「編集後記」に発行の遅れの弁明がみえる。無理して発行したのは「3号雑誌」だったのかと思われるのが口惜しいから、と記されている。

4 『同』第1巻－第4号、10月号

昭和10年10月18日発行、編集責任者兼印刷人、発行人、発行所、同上、40頁、15銭。

収録作品は、巻頭言、詩7、短歌（和歌）7、俳句3、随筆随想2、創作4、その他3（小説評、原稿募集、注意）。

巻末の「注意」に、「同人費を今度30銭にしましたから…、同人には雑誌3冊差上げます。誌代は1ヶ月15銭ですから…、…同人費と誌代は本誌発行の原動力ですから。」と同人費の値上げに関する記述がみえる。

5 『同』第1巻－第5号、11月号

昭和10年11月15日発行、編集責任者兼印刷人、発行人、発行所、同上、28頁、誌代15銭。

収録作品は、巻頭言、詩7、短歌9、俳句2、随筆随想1、創作2、その他3（座談、規則、原稿募集）。

表紙上段に「文藝雑誌」と記されている。興味深いのは3頁分の「蒼穹10月号座談」である。

佐藤十蟻、伊藤正三郎、三橋角太郎、三橋兄弟治、信子（遅参）の5人の座談会（合評会）。進行係は三橋兄弟治で、頁順に作

品を批評している。手厳しい発言がある一方「自評」が興味深い。ジャンル別に批評を抄録する。

「随想」：もっとつつ込んだ描写がしてあったら一層よかった。

「創作」：描写が足りない、もっと簡潔になってもいい。

「短歌」：故意に調子の面白さをねらっている。重複している。すなおさがとてもいい、ずんずんよくなる人だと思います。相当年輩の人が作品を発表してくれるので何より力強く思い感謝している。期待してゐたので、物足りない感じがします、一つの型にはまってゐる様ですね。ありきたりで古いですよ。先月より少し落ちた、来月を期待しましょう。幾分過渡期の様なところも見えますが。前のと比べるとずっとうまくなりました、素質のいい人だから今後を期待しよう。

「詩」：推敲が足りなかった事に気づきます（自評）。モチーフがいい、素質のよさと云うものがわかると思ふ。それでも苦心したのです（自評）、もっと丁寧に描写してもよかったでせう。今度はもっとしっかりしたものを出しますから（自評）。…等々。

この時点で整備されたものか、「蒼穹社清規」（全5条）が掲載されている。3条に記されている「同人内規」は未見である。

「蒼穹社清規」

- 1 蒼穹社は文芸一般の進展向上を目的とする結社にして毎月1回雑誌蒼穹を発行する。
- 2 社員を同人及び準同人とし、他は一般投稿とす。準同人は一般投稿者中より本人の希望と同人の推薦により決定す。
- 3 準同人中より、その実力ならびに経歴を考慮し同人を推薦するものとす。同人は別に同人内規を遵守するものとす。
- 4 準同人は毎月準同人費として20銭納入せられたし、（切手代用も可、宛名は三橋角太郎宅）その際蒼穹2部を呈す。

5 同人は同人費30銭を毎月納入すべし。尚蒼穹3冊を頒つ。

6 作品の採否についての責任は当分左（下）記同人之を分担す。

詩（佐藤十蟻） 短歌（伊藤古城）
俳句（三橋松童） 小説（松下寅治）
其の他（三橋兄弟治）

6 『胎土』第2巻—第1号、1月号

誌名は「たいど」、表紙の上段に「蒼穹改題」とある。

昭和11年1月10日発行、編集者・村田鐘一郎（茅ヶ崎町中海岸）、印刷兼発行人・三橋兄弟治、発行所・胎土発行所（三橋方）、24頁、10銭。

収録作品は、巻頭言、詩1、短歌15、俳句1、随筆随想1、創作2、その他3（歌評、合評会、原稿募集）、あとがき、消息。

「11月号合評会」には、伊藤古城、石井芙美子、小野湖子、佐藤十蟻、伸子、増田よしおみ、村田章一郎、道野草男、三橋兄弟治、三橋松童の10人が参加した。詩・短歌のみの合評である。短歌に対しては村田の発言が多くかつ指摘が的確である。

「詩」：「詩想」について勉強するつもり、ふだん考えているものをぶちまけて見ようと思つてゐるのです（自評）。自分に持っていないものを見せて頂いた様な気がします。印象的になってきましたね。奇知の様なものが勝つてはゐないだろうか。甘いような感じがして、伸展を閉ざしてはいないか。

「短歌」：叙情にすぐれている。感情的な大変複雑なものが表現されてゐて、いいです。この人はしっかりしていますね。おかげさまで少しはわかつて来た様な気がします（自評）。少し幼稚の様に思います。新ローマン主義…。個性のキハクなのが欠点なのではいかと思ふ。材料をそろへすぎる、表現が深いといふでせう。文法上の誤りの様ですネ。あまり散文すぎる。ナイーブなところがいいですね。大げさだが将来

性のある人の様に思う。

「あとがき」に「胎土」発行の状況は詳しい。

「1936年（昭和11年）を新に迎へると共に旧蒼穹を「胎土」と改題して全く新しい気持ちで出発し直すことになった。この準備のために12月号は休刊にしたのです。そして今迄の編集を見ると、短歌の発展だけを見るべきものがあるが詩や小説にはどうもいゝものが出て来なかった。それ故、いきほひ短歌中心になった。併し、理由は外にも一つあるにはあるのです。それは活版でない為長いものがのせられないことです。投稿して下さる方はこのことをよく御承知の上、なるべく短くていゝものを書いて下さい。……」

「消息」に4人の同人の動向が見える。

「今度同人になられた村田章一郎君は短歌誌「短歌街」の同人として活躍して居られます。本号より編輯をやって頂く事になりました。更に今度同人になられた小野湖子君は、新興俳句雑誌「帆」を発行して居られる新人です。今迄本誌の同人として働いて下さった三橋角太郎君は今度都合によって同人を辞されました。本誌の同人で詩を発表して居られた伸子さんは今度雑誌「詩洋」の同人になられました。」

「原稿募集」に、「種目は制限せず、但し原稿5枚以内のもの、採否は編者一任のこと。…歌と歌との間は1行の空白をおくこと。…〆切は毎月20日」と「蒼穹」時代と少し変更している。

巻末に「古書と文房具は文化堂へ！ 新町踏切際」の宣伝が大きく掲載されているのが印象に残った。

なお、『胎土』は1号のみで、その後は未見である。『胎土』の顛末は如何に。

村田の経営する「文化堂」も気になる。文学青年の活動の拠点であったのだろうか。筆者は昭和50年代前半に市役所を訪れる長身でゆったりとお話をされる村田の

面影を思い出す。歌人で「茅ヶ崎寒川短歌会」の重鎮のお一人で、歌集を数冊成している方と伺っていた。

ご教示を賜りたいことは多い。

追 記

①貴重な資料を多数ご提供していただいた三橋兄弟治先生に心より感謝申し上げたい。明治44年（1911）1月22日にお生まれの先生は、今年平成23年に生誕100年をむかえられた。この記念すべき年に先生の24、5歳のお若い時に作られた「文芸作品」や表紙絵・口絵・カットなどの「美術作品」を紹介できた喜びは大きい。

今後も市の美術館などで先生の作品を鑑賞する機会を多く持ちたいと考えている。

なお、この2月中旬に先生のご遺族から大作「バルデオブレスの古城」（P80号）が「音楽の好きだった故人の作品を、演奏会の折にみなさんに観ていただきたい」との目的で市にご寄贈され、文化会館に飾られている。先生の作品に触れられる場所が一箇所増えた。市民にとっては大変喜ばしいことの一つといえる。

また、奥様・英子先生は米寿を迎えられるとのこと、ますますのご健康とご活躍をお祈り申し上げたい。

②今回も多くの方のご教示を得た。

市社会教育課、市文化生涯学習課のみなさん、特に細部に渡りご指導ご協力いただいた須藤格氏（文化資料館）、関山知子氏（文化生涯学習課以下同じ）、辻雅之氏、杉本斐香氏、喜多見郁枝氏、土方亨江氏に深謝する。

* 茅ヶ崎市文化生涯学習部文化生涯学習課

市史編さん担当

『蒼穹』・『胎土』 7月號～1月號 「総目次」

『蒼穹』 7月號 (1-1)

昭和10年7月10日印刷納本 昭和10年7月15日発行
表紙・口絵 三橋兄弟治
編輯責任者兼印刷人 神奈川県高座郡茅ヶ崎町茅ヶ崎4237番地
三橋兄弟治
発行人 神奈川県高座郡茅ヶ崎町茅ヶ崎1980番地
伊藤 正三郎
発行所 全 非売品

[7月のことば] ヒマハリ (巻頭言)
故郷の地に「蒼穹」の生るゝを聞きて(随想)
「蒼穹」の創刊について
蛾の誕生 (随筆)
犬殺し (創作)
(短歌)
海辺の凧 (詩)
未完成の魅力 (随想)
或る男の手紙 (創作)
友情 (短歌)
二枚の端書 (小品)
花菖蒲 (詩)
大空 (詩)
大空 (詩)
彼と帽子 (創作)
涼み台 (俳句)
雑詠 (俳句)
夕焼 (随想)
白鳥 (随想)
梅雨の頃 (短歌)
「蒼穹」原稿募集
編輯後記



兄弟治生
川口 キミ
編集部
佐藤 十蟻
伊藤正三郎
草 ひばり
佐藤 十蟻
三橋兄弟治
三橋角太郎
三橋兄弟治
伸子
極北生
三橋角太郎
伸子
三橋 絃児
三橋 松童
臼田 吟浪
三橋角太郎
三橋角太郎
伊藤 古城
—
M生

8月號 (1-2)

昭和10年8月10日印刷納本 昭和10年8月15日発行
表紙・挿画 三橋兄弟治 口絵木版画「夏」 和田史樓
編輯責任者兼印刷人 神奈川県高座郡茅ヶ崎町茅ヶ崎4237番地
三橋兄弟治
発行人 神奈川県高座郡茅ヶ崎町茅ヶ崎1980番地
伊藤 正三郎
発行所 全

8月の言葉 (巻頭言)
浩然の氣 (随想)
鳳仙花 (随想)
(詩)
盆燈籠 (随想)
或友に答へて
藝術鑑賞の困難
伊香保 (詩)
お墓参り (民謡) (詩)
蜻蛉 (詩)
時 (詩)
雨の音 (詩)
朝 (詩)
焰 (詩)
林中濁語 (詩)
海 (詩)
黒蝶の歌 (詩)
トマト事件 (創作)
阿彌陀様 (つづく) (創作)
雨の夜 (短歌)



三橋角太郎
佐藤 十蟻
土岐 敏子
ハインリッヒ・ハイネ
三橋角太郎
伊藤正三郎
三橋兄弟治
三橋 三吉
長島 凡夫
三橋角太郎
青木しげる
土岐 敏子
土岐 敏子
三木たかし
三木たかし
青木しげる
佐藤 十蟻
草 ひばり
長島 凡夫
伊藤 古城

蚊帳釣草（短歌）
夏盛り（短歌）
鎌倉に遊びて（短歌）
母の文（短歌）
読者の聲
読者の聲
ダビンチの言葉
伊香保に遊びて（俳句）
納涼（俳句）
雑詠（俳句）
夏盛り（俳句）
蒼穹原稿募集
蒼空同人住所氏名(10人)
編輯後記

石井ふみ子
草 ひばり
三橋兄弟治
伸子
やす子
加藤生
—
三橋 三吉
臼田 猛
石井ふみ子
三橋 松童
—
—
M生

9月號 (1-3)

昭和10年9月25日印刷納本 昭和10年9月30日発行
表紙題字 石黒翠波 表紙図案 佐藤十蟻
カット図案 三橋兄弟治
編輯人兼印刷人 神奈川県高座郡茅ヶ崎町茅ヶ崎4259番地
三橋角太郎
発行人 神奈川県高座郡茅ヶ崎町茅ヶ崎1980番地
伊藤 正三郎
発行所 全

海に対して（巻頭言）
俳句の形式について
蜥蜴（散文詩）
新秋随筆
灯（随筆）
こゝろの秋（随筆）
恥さらし（随筆）
癒へたる彼
葡萄（詩）
秋日（詩）
初秋（詩）
水に立ちて（詩）
母を憶ふ（詩）
夕暗（詩）
九月の海（詩）
母のうたへる（短歌）
病床にて（短歌）
朝夕の秋（短歌）
雑詠（短歌）
涼風（短歌）
ピアノ（短歌）
天才（短歌）
雑詠（俳句）
新涼（俳句）
秋近し（俳句）
阿彌陀様（第二回・完）（創作）
蒼穹原稿募集
編輯後記



M.K生
三橋角太郎
佐藤 十蟻
伊藤正三郎
伸子
臼田 放民
道野 草男
青木しげる
三橋角太郎
三橋角太郎
伸子
三橋 國助
伊藤生
三橋 三吉
石井英美子
水越 いと
水越 悠基
伊藤 古城
三橋 三吉
石井英美子
草ひばり
三橋兄弟治
臼田 吟浪
石井英美子
三橋 松童
永島 凡夫
—
—

10月號 (1-4)

昭和10年10月13日印刷納本 昭和10年10月18日発行
表紙題字 石黒翠波 表紙木版画・カット 三橋兄弟治
口絵木版画「秋」 和田史樓
編輯人兼印刷人 神奈川縣高座郡茅ヶ崎町茅ヶ崎4259番地
三橋角太郎
発行人 神奈川縣高座郡茅ヶ崎町茅ヶ崎1980番地
伊藤 正三郎
発行所 全

最後の審判 (巻頭言)
黄金虫 (随想)
栗 (随想)
木通 (詩)
紫蘇の實 (詩)
海の災禍 (詩)
或日の感傷 (詩)
芋の花 (随筆)
先輩 (創作)
雑詠 (和歌)
コスモスの花々 (和歌)
秋の歌 (和歌)
蒼穹に奇す (和歌)
○ (和歌)
人形 (和歌)
秋草 (和歌)
小説評 8・9号
秋の空 (俳句)
詫びしさ (創作)
夜寒 (俳句)
秋雑詠 (俳句)
或る月の夜 (創作)
金魚 (詩)
秋を讃ふ (詩)
ポプラの並木 (詩)
蒼穹原稿募集
注意



佐藤 十蟻
佐藤 十蟻
長嶋 梵夫
佐藤 十蟻
伸子
三橋角太郎
三橋兄弟治
美稲子
小莞子
松下 寅治
佐藤 十蟻
水越 いと
T.M生
水越 ゆき
草ひばり
石井英美子
松下 寅治
三橋 松堂
中島 洋胡
石黒 松葉
臼田 吟狼
山辺十姉妹
とほる
小莞子
中島 洋湖
—
—

11月號 (文藝雑誌) (1-5)

昭和10年11月13日印刷納本 昭和10年11月15日発行
表紙 三橋兄弟治 口絵木版画「黒蝶の歌」 和田史樓
編輯人兼印刷人 神奈川縣高座郡茅ヶ崎町茅ヶ崎4259番地
三橋角太郎
発行人 神奈川縣高座郡茅ヶ崎町茅ヶ崎1980番地
伊藤 正三郎
発行所 全

ひたむきな心 (巻頭言)
自然循環の理 (随筆)
饒舌な空林 (詩)
カンナ (詩)
おそ秋の夜 (詩)
菊咲きぬ (短歌)
鬼怒川の夜 (短歌)
野良にて詠める (短歌)
斜光 (短歌)
秋の向日葵 (短歌)
朝夕のこの頃 (短歌)
時雨 (短歌)
妹等の遠足につきて (短歌)
みのる秋 (短歌)
ハイキング (俳句)
出船の浜 (俳句)



松下 寅治
佐藤 十蟻
佐藤 十蟻
伸子
三橋角太郎
水越 伊都
松下 寅治
三橋いとぢ
伊藤 古城
T.M生
草ひばり
水越 ゆき
石井英美子
三橋 国助
三橋 松童
臼田 吟狼

蒼穹10月号座談

月給袋(小品)
訣別(詩)
桐の葉(詩)
薔薇(詩)
秋風吹きて(詩)
臨時工場地帯(創作)
蒼穹社清規
原稿募集

佐藤十蟻・伊藤正三郎・三橋角太郎
三橋兄弟治・伸子
美稲子
小莞子
石井芙美子
三橋 国助
とほる
道野 草男
—
—

『胎土』(蒼穹改題) 1月號 (2-1)

昭和11年1月7日印刷納本 昭和11年1月10日發行
表紙 三橋兄弟治 版画 和田史樓
編集者 神奈川県茅ヶ崎町中海岸 村田鐘一郎
印刷兼發行人 神奈川県高座郡茅ヶ崎町茅ヶ崎4237番地
三橋兄弟治
發行所 全 胎土發行所

歌人の言葉(卷頭言)
カヤキリ(隨筆)
農場点景(俳句)
庭の初冬(短歌)
母の歌(短歌)
影(短歌)
紅蓼の花(短歌)
○(短歌)
祖母の思ひ出(短歌)
初冬近し(短歌)
湘南行(短歌)
夕焼(短歌)
○(短歌)
○(短歌)
お化けごっこ(短歌)
○(短歌)
船笛(短歌)
流線型時代(短歌)
歌評
銀のメタル(詩)

11月號合評会

あとがき
消息
原稿募集



村田章一郎
佐藤 十蟻
小野 湖子
松下 寅治
水野 伊都
よしおみ
めぐみ
三橋 三吉
石井芙美子
三橋 国助
岸 トシ
小畑 錦子
三橋兄弟治
斧 芙美緒
佐藤 十蟻
石川久美子
村田章一郎
村田章一郎
和田 厚
三橋 三吉
伊藤古城・石井芙美子・小野湖子・佐藤十蟻
伸子・増田よしおみ・村田章一郎・道野草男
三橋兄弟治・三橋松童
—
—
—

『蒼穹』・『胎土』 7月號～1月號 「作者別索引」

No.		作 者 名	表 題	號 数
1	あ	青木しげる	時(詩)	8月號
2			海(詩)	8月號
3			癒へたる彼	9月號
4	い	石井ふみ子	蚊帳釣草(短歌)	8月號
5			雑詠(俳句)	8月號
6		石井芙美子	九月の海(詩)	9月號
7			涼風(短歌)	9月號
8			秋草(和歌)	10月號
9			妹等の遠足につきて(短歌)	11月號
10			桐の葉(詩)	11月號
11			祖母の思ひ出(短歌)	1月號
12			11月號合評会	1月號
13		石川久美子	○(短歌)	1月號
14		石黒 翠波	(表紙題字)	9月號
15			(表紙題字)	10月號
16		石黒 松葉	夜寒(俳句)	10月號
17		兄弟治生	[7月のことば] ヒマハリ(巻頭言)	7月號
18		伊藤 古城	梅雨の頃(短歌)	7月號
19			雨の夜(短歌)	8月號
20			朝夕の秋(短歌)	9月號
21			斜光(短歌)	11月號
22			11月號合評会	1月號
23		伊藤生	母を憶ふ(詩)	9月號
24		伊藤正三郎	犬殺し	7月號
25			或友に答えて	8月號
26			新秋随筆	9月號
27			蒼穹10月号座談	11月號
28	う	臼田 吟浪	雑詠(俳句)	7月號
29			雑詠(俳句)	9月號
30			秋雑詠(俳句)	10月號
31			出船の浜(俳句)	11月號
32		臼田 猛	納涼(俳句)	8月號
33		臼田 放民	こゝろの秋(随筆)	9月號
34	お	小畑 錦子	夕焼(短歌)	1月號
35		小野 湖子	農場点景(俳句)	1月號
36			11月號合評会	1月號
37		斧 芙美緒	○(短歌)	1月號
38	か	加藤生	読者の聲	8月號
39		川口 キミ	故郷の地に「蒼穹」の生るゝを聞きて(随想)	7月號
40	き	極北生	花菖蒲	7月號
41		岸 トシ	湘南行(短歌)	1月號
42	く	草 ひばり	(短歌)	7月號
43			トマト事件(創作)	8月號
44			夏盛り(短歌)	8月號
45			ピアノ(短歌)	9月號
46			人形(和歌)	10月號
47			朝夕のこの頃(短歌)	11月號
48	さ	佐藤 十蟻	蛾の誕生(随筆)	7月號
49			海辺の風(詩)	7月號
50			浩然の氣(随想)	8月號
51			黒蝶の歌(詩)	8月號
52			蜥蜴(散文詩)	9月號
53			(表紙図案)	9月號
54			最後の審判(巻頭言)	10月號
55			黄金虫(随想)	10月號
56			木通(詩)	10月號
57			コスモスの花々(和歌)	10月號
58			自然循環の理(随筆)	11月號

59			饒舌な空林 (詩)	11月號
60			蒼穹10月号座談	11月號
61			カヤキリ (隨筆)	1月號
62			お化けごっこ (短歌)	1月號
63			11月號合評会	1月號
64	し	小莞子	先輩 (創作)	10月號
65			秋を讃ふ (詩)	10月號
66			訣別 (詩)	11月號
67	と	土岐 敏子	鳳仙花 (隨想)	8月號
68			雨の音 (詩)	8月號
69			朝 (詩)	8月號
70		とほる	金魚 (詩)	10月號
71			秋風吹きて (詩)	11月號
72	な	中島 洋湖	詫びしさ (創作)	10月號
73			ポプラの並木 (詩)	10月號
74		長島 凡夫	お墓参り (民謡) (詩)	8月號
75			阿彌陀様 (つゞく) (創作)	8月號
76			栗 (隨想)	10月號
77		永島 凡夫	阿彌陀様 (第二回・完) (創作)	9月號
78	の	伸子	二枚の端書 (小品)	7月號
79			大空 (詩)	7月號
80			母の文 (短歌)	8月號
81			灯 (隨想)	9月號
82			初秋 (詩)	9月號
83			紫蘇の實 (詩)	10月號
84			カンナ (詩)	11月號
85			蒼穹10月号座談	11月號
86			11月號合評会	1月號
87	は	ハインリッヒ・ハイネ	(詩)	8月號
88	へ	編集部	蒼穹創刊について	7月號
89	ま	増田よしおみ	11月號合評会	1月號
90		松下 寅治	雑詠 (和歌)	10月號
91			小説評 8・9号	10月號
92			ひたむきな心 (巻頭言)	11月號
93			鬼怒川の夜 (短歌)	11月號
94			庭の初冬 (短歌)	1月號
95	み	三木たかし	焰 (詩)	8月號
96			林中濁語 (詩)	8月號
97		水越 いと	母のうたへる (短歌)	9月號
98			秋の歌 (和歌)	10月號
99		水越 伊都	菊咲きぬ (短歌)	11月號
100			母の歌 (短歌)	1月號
101		水越 ゆき	○ (和歌)	10月號
102			時雨 (短歌)	11月號
103		水越 悠基	病床にて (短歌)	9月號
104		道野 草男	恥さらし (隨筆)	9月號
105			臨時工場地帯 (創作)	11月號
106			11月號合評会	1月號
107		三橋いとち	野良にて詠める (短歌)	11月號
108		三橋兄弟治	(表紙・挿絵)	7月號
109			未完成の魅力 (隨想)	7月號
110			友情 (短歌)	7月號
111			鎌倉に遊びて (短歌)	7月號
112			(表紙)	8月號
113			美術鑑賞の困難	8月號
114			(カット図案)	9月號
115			天才 (短歌)	9月號
116			(表紙木版画・カット)	10月號
117			或日の感傷 (詩)	10月號
118			(表紙)	11月號
119			(カット)	11月號

120			蒼穹10月号座談	11月號
121			(表紙)	1月號
122			○(短歌)	1月號
123			11月號合評会	1月號
124		三橋 絃児	彼と帽子(創作)	7月號
125		三橋角太郎	或る男の手紙(創作)	7月號
126			大空(詩)	7月號
127			夕焼(随想)	7月號
128			白鳥(随想)	7月號
129			8月の言葉(巻頭言)	8月號
130			盆燈籠(随想)	8月號
131			蜻蛉(詩)	8月號
132			俳句の形式について	9月號
133			葡萄(詩)	9月號
134			秋日(詩)	9月號
135			海の災禍(詩)	10月號
136			おそ秋の夜(詩)	10月號
137			蒼穹10月号座談	11月號
138		三橋 国助	みのる秋(短歌)	11月號
139			薔薇(詩)	11月號
140			初冬近し(短歌)	1月號
141		三橋 國助	水に立ちて(詩)	9月號
142		三橋 三吉	伊香保(詩)	8月號
143			伊香保に遊びて(俳句)	8月號
144			夕暗(詩)	9月號
145			雑詠(短歌)	9月號
146			○(短歌)	1月號
147			銀のメタル(詩)	1月號
148		三橋 松童	涼み台(俳句)	7月號
149			夏盛り(俳句)	8月號
150			秋近し(俳句)	9月號
151			秋の空(俳句)	10月號
152			ハイキング(俳句)	11月號
153			11月號合評会	1月號
154		美稲子	芋の花(創作)	10月號
155			月給袋(小品)	11月號
156	む	村田章一郎	歌人の言葉(巻頭言)	1月號
157			船笛(短歌)	1月號
158			流線型時代(短歌)	1月號
159			11月號合評会	1月號
160	め	めぐみ	紅蓼の花(短歌)	1月號
161	や	やす子	読者の聲	8月號
162		山辺十姉妹	或る月の夜(創作)	10月號
163	よ	よしおみ	影(短歌)	1月號
164	わ	和田 厚	歌評	1月號
165		和田 史樓	(口絵・木版画「夏」)	8月號
166			(口絵・木版画「秋」)	10月號
167			(口絵・木版画「黒蝶の歌」)	11月號
168			版画	1月號
169	M	M生	編輯後記	7月號
170			編輯後記	8月號
171		M.K生	海に対して(巻頭言)	9月號
172	T	T.M生	蒼穹に奇す(和歌)	10月號
173			秋の向日葵(短歌)	11月號
174		無記名	原稿募集	7月號
175			蒼穹原稿募集	8月號
176			蒼空同人住所氏名	8月號
177			蒼穹原稿募集	8月號
178			蒼穹原稿募集	9月號
179			編輯後記	9月號
180			蒼穹原稿募集	10月號

181			注意	10月號
182			蒼穹社清規	11月號
183			原稿募集	11月號
184			あとがき	1月號
185			消息	1月號
186			原稿募集	1月號